備 前 市 事 務 事 業 評 価 表

（平成19年度事業）

事業の概要

事務事業名	リサイクル施設整備事業		コード	01-01-14-12	
事業開始年度	平成17年度～		根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 循環型社会形成推進地域計画に基	
総合計画	大項目	基本目標	安全で快適に暮らせるまちづくり	問合せ先	担当課（室）	環境課
	中項目	基本施策	生活しやすいまちづくり		職・氏名	衛生係長・森本和成
	小項目	施　策	ごみ処理		電　話	64-1821

事業の実施

対　象 （誰・何に対して）	旧焼却場を解体し、その場所にリサイクル施設の整備を進める。
目　的 （何のために）	資源循環型社会を構築する。
行政活動 （どのような方法で）	旧焼却場を解体し、その場所にリサイクル施設の整備し、資源循環型社会の一助とする。
事業の意図する成果 （どのような状態にしたいのか）	安全な取り壊しと資源循環型社会を形成するための施設整備をする。

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業の実績

活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	第一清掃工場の解体工事費	円		76,440,000	
	第１清掃工場解体工事施工監理業務委託料	円		3,633,000	
	日生清掃工場解体撤去工事	円			71,536,500
	日生清掃工場解体撤去工事施工監理業務委託料	円			4,200,000
		円			
事業費	直接事業費	千円		83,748	77,389
事業費	人件費	千円		8,005	4,897
事業費	事業費計	千円	0	91,753	82,286
財源	国県支出金	千円		28,105	25,855
財源	受益者負担	千円			
財源	市債	千円		50,000	46,200
財源	一般財源	千円	0	13,648	10,231
	必要人員	人		0.80	0.52

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
結果指標①		説明			
結果指標①	結果指標量	人			
結果指標①	対前年比	%	－		
結果指標①	活動コスト	円			
結果指標①	単位当たりコスト	円			
結果指標②		説明			
結果指標②	結果指標量	人			
結果指標②	対前年比	%	－		
結果指標②	活動コスト	円			
結果指標②	単位当たりコスト	円			

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事業の成果

成果指標名	ストックヤードを建設	式又は説明	焼却施設を解体し、ストックヤードを建設する。

	17年度	18年度	19年度
成果指標量			
対前年比	―		

到達目標値	ストックヤードを建設するために、焼却施設を解体する。	到達目標年度	平成22年度

事務事業の評価

妥当性の評価

目的	☐ 関法令等で目的が定められており妥当である（法律・政省令） ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている ☐ 事業開始当初の目的から変化している
対象	☐ 対象を見直す必要がある
行政活動	☑ 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない
事業の意図する成果	☐ 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない
市民ニーズ	☐ 市民、団体などから要望・要請の強い事業である
市の関与	☑ 本市が関与しなければならない事業である ☐ 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい ☐ 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である

妥当性評価＜A～E＞ B

課題認識

備前第一清掃工場及び日生清掃工場焼却施設の解体を主たる目的にすると多くの一般財源が投入されることになるが、跡地にストックヤードを整備することで、国庫補助が受けられる。

効率性の評価

コスト	☐ コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい ☑ コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい ☐ サービスを低下させずにコストを低減することは困難 ☐ 受益者負担額を見直す余地がある
手段	☑ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善に努めている ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
職場	☐ 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている ☐ 事業に関するOJT（職場研修）は行われている ☐ 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい

効率性評価＜A～E＞ B

課題認識

備前第一清掃工場及び日生清掃工場焼却施設の解体を主たる目的にすると多くの一般財源が投入されることになるが、跡地にストックヤードを整備することで、国庫補助が受けられ、将来の資源の回収拠点としても役立つ。

有効性の評価

目的達成度	☐ 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである ☐ 成果指標は前年度より向上している
成果向上の可能性	☐ 成果は向上しており今後も向上する見込みである ☐ 今後、成果指標は向上する余地がある
市民参画度	☐ 事業について積極的に情報提供している ☐ 事業実施等で積極的に市民意見を反映している ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している ☐ 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている

有効性評価＜A～E＞ B

課題認識

資源のリサイクルは避けられない課題であり、それを推進するために役立つ。

平成20年度の状況

☐ 重点化している　☐ 休止している
☑ 前年度と同様に継続している　☐ 他の事業と統合している
☐ 見直し継続している　☐ **平成19年度で廃止・完了**
☐ 事業を縮小している

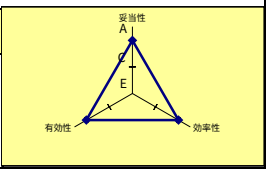
説明：平成20年度において、リサイクル施設整備を行う予定である。

目標値			
結果指標量①		結果指標量②	
成果指標量	古紙類のストックヤードを建設する。		

総合評価

旧備前市第一清掃工場は休止後、数年が経過し、放置していたが、この補助金を利用することで、解体ができ、また、後年度にリサイクル施設の古紙のストックヤードができる。

評価区分＜A～E＞：B



平成21年度以降の方向性

☐ さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)　☐ 事業の縮小を検討する
☑ 現状のまま継続する　☐ 休止・廃止を検討する　☐ **平成20年度で廃止・完了**
☐ 見直しのうえで継続する　☐ 他の事業と統合を検討する

平成21年度以降の改善事項

評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果